

島根の大地の成り立ち：地質図

島根県の地質は東、西-中央、沿岸部という大きく 3 つの地質帯に分かれる。

地図上で赤や濃いピンクで表している東半分は、大半が冷えたマグマや溶岩でできた火成岩からなる。これらの岩はおよそ 1 億 4500 万年から 2300 万年前の白亜紀-古第三紀に形成された。

島根県の中央と西の地域は、おもに小さな粒子が圧縮されてできた堆積岩と、その堆積岩に構造プレート移動時に生じる非常に強い圧力が加わってできた変成岩の 2 種類の岩でできている。これらの地域ができたのは 2 億 9900 万年から 6600 万年前のペルム紀から中生代の終わりまでで、地図では薄い黄色、青、オレンジの広い地域である。

最後に、島根県の沿岸地域は約 2300 万年前から現在までの中新世から形成された火成岩と堆積岩で主にできている。この時代に日本海ができ、現在の沿岸地域は古代の海底部だった。これらの岩は地図の海岸線に沿って分布している多くの小さな個々に色づけされた部分で表されていて、中心の海岸と島根半島上の断片的な青やオレンジの地域も含まれる。

地図の左上は島根半島沖にある隠岐諸島の図である。島後の濃いピンクの輪は、中生代（2 億 5200 万年から 6600 万年前）に日本がユーラシア超大陸の一部であった時代に形成された変成岩である片麻岩の層を表わしている。日本でも限られた場所で見られない、国内最古の岩のひとつが見られる場所である。